



津山市地域おこし協力隊 岩野 大輔さん（北町）

津山東高校を卒業後、大阪のデザイン専門学校に進学し、木工の魅力を知る。家具職人として神戸市で7年間過ごしたのちUターンし、平成31年4月に津山市地域おこし協力隊に就任。阿波地域の「食・暮らし・風土」を生かした交流体験を企画するなど、地域を訪れる人を増やす仕組みづくりに取り組む。31歳。



津山市地域おこし協力隊になろうと思ったきっかけは？

専門学校を卒業後、商業施設などで使われる家具を作る会社に就職しました。家具の世界をもっと深く知りたいと思い、オーダーメイドを手掛ける家具職人に転身しました。技術や知識を身に付け、いつか地元に戻りたいと思っていました。

家具づくりでは、素材を生かしながら、どういう場面で誰が何に使うのかという物語を形にしていきます。地域おこし協力隊として、地域の物や場所を生かし、背景にある歴史や人を結び付けるなどして、地域に人を呼び込む仕掛けをつくる人材を津山市が募集していることを知りました。家具作りと重なるものを感じ、これまで培ってきた技術や経験を地域のために生かせるのではないかと思い、応募しました。

どのような活動をしていますか？

阿波地域で行われるイベントの企画や商品開発の支援などを行っています。

地域で大切にされてきたリンゴ畑が、担い手がなく、存続が危ぶまれていたため、地域の皆さんと協力して栽培に取り組みました。リンゴの木は、1年放置すると収穫できなくなるなど、繊細で栽培が難しいといわれています。リンゴ作りの経験者がいなかったので、試行錯誤の連続でした。何とか収穫までこぎつけ、市内の店に販売したほか、リンゴの枝を使ったエンピツ作りなどのワークショップを行いました。

津山の皆さんにメッセージを

歴史や人のつながりは、他にない地域の魅力です。訪れる人に物や場所だけでなく、それにまつわる物語や住む人との出会いを楽しんでもらえる仕組みを皆さんと一緒につくっていきたいです。みんなで津山の魅力を伝えていきましょう。



▲岩野さんが作った木製玩具^{がん}を使ってモルックを楽しむ子どもたち（モルック：木の棒を投げ、ピンを倒して点数を競うニュースポーツ）



▲エンピツ作りのワークショップで作り方を説明する岩野さん

表紙の津商モールを取材しました。この催しは、津山商業高校の販売実習で、会場を学校内から、今年初めて中心商店街に変えたそうです。空き店舗を活用し、高校生自ら通行人に大きな声で呼び掛ける姿が印象的でした。わずか4時間の催しでしたが、高校生たちの結束力を感じ取ることができました。(三)

今回の特集で、市の就職支援を取材しました。参加した学生の満足度は高い一方で、定員に満たないものもありました。情報が届いていないことが一因のようです。自分が経験できなかったさまざまな可能性に出会える学生をうらやましいと思いつつ、津山の未来のため、しっかりと発信していかなければ！(二)



先日、津山東高校の授業に助言役で入る機会がありました。35歳のわたしは、17年ぶりの高校の授業現場に、懐かしい気持ちになりました。ふと黒板を見ると「英語Ⅰ、数学A、漢文Ⅰ」の文字が。あの頃に戻りたいなんて、決して思いません(笑)。頑張れ！高校生たち。限りある時間を大切にしてください。(W)

編集・発行
津山市総合企画部秘書広報室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市北520

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.lg.jp

広報津山は、環境保護のため再生紙と植物性インキを使用しています。読み終わった後はリサイクル(資源)にご協力ください。

広報津山
電子版
QRコード

津山市公式
フェイスブック
ツウィット

津山市公式
LINE

津山市公式
インスタグラム

津山市公式
YouTube

津山市公式
YouTube